

# Race Report



文部科学大臣杯 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦 SUGO 大会 JSB1000 クラス

会場: 宮城県 SUGO インターナショナルサーキット

日時: 8月9日(土) 雨 公式練習

8月10日(日) 雨 予選、決勝レース1

8月11日(祝月) 晴れ 決勝レース2

観客数: 8,300 人 (大会期間中)

## 結果

予選 アタック中に転倒したため予選通過基準タイムをクリア出来ませんでしたが嘆願が認められ決勝レースへ出場することが出来ました。

レース1 WET 19 台中 12 位 (シリーズポイント 9 ポイント獲得)

レース2 DRY 17 台中 16 位 (シリーズポイント 5 ポイント獲得)

## ・レースレポート

鈴鹿 8 耐へ向けて、新調したマシン BMW S1000RR と初めて使用するピレリタイヤにライダー、スタッフが適応するため、実戦を通じてスキルアップを目指し参戦しました。

理想はドライの状態で行き込み、マシン、タイヤのフィーリングをしっかりと感じながらそれに順応させて行きたいところでしたが、東北地方の梅雨明けが遅れ、事前テストレースウィークを通して、ドライで走れたのは2日間のみでした。



## ・予選

迎えた予選は、雨となりコース上には川が流れるほどの雨量でした。雨に対する苦手意識はなかったため、攻めようとしますが、前日の公式練習からリアタイヤのグリップ不足に悩んでいまし

た。しかし、予選なのでとにかく付いていくしかないということで、ダミーグリッドの最前列からスタートしました。コースインラップでは、リアタイヤのグリップが良かった感触があったため『これなら攻められる』と思いペースを上げて行きました。その直後、6 コーナーハイポイントコーナーの川に足元をすくわれハイサイド転倒を起こしてしまいました。マシンから放り出されコース上に叩きつけられましたが、身体は動きましたのでマシンに駆け寄り状況を確認すると、アクセルのスロットルボディが破損し走行不能になってしまいました。スペアマシンがあるので、ピットまで戻れば再スタート出来ると思いコースマーシャルに確認しますが、ピットには戻れないと言われてしまいました。

大切なマシンを壊してしまった申し訳なさ、タイムアタック出来なかった悔しさが込み上げ、やり切れない気持ちになった予選となってしまいました。そして、ピットに戻ると転倒によるタイム計測が出来なかったということで、嘆願が通るかもしれないということで、吉井代表がすぐに嘆願書を大会事務局へ提出しました。その後、審議結果を待っていると午後のレース1のグリッドに自分の名前が記載されていました。嘆願が通り決勝レースを走ることが出来るようになりました。



#### ・レース1

レース1は予選に引き続き雨のレースとなりました。予選で破損したメインマシンからスペアマシンで出走することにしました。チームのメカニックは短時間の中、懸命に作業をしてくれました。そして、今年初レースとなるグリッドに着くことが出来ました。今年は、コロナ禍の中、様々なレースが中止となり、大変な状況の中こうしてレースが出来ることに心から感謝と喜びの気持ちが溢れて来ました。スタート直後は小降りでしたが、途中から雨が強くなるというサバイバルレースとなりました。午前中の予選の転倒も有り無理は出来ない状況の中、まずは第1レースをしっかりと完走することを意識して走りました。中盤以降、雨が降り出すと転倒者が続出となりました。終わってみると19台中8台が転倒するという波乱のレースとなり、無転倒の12台の中に入り全日本選手権で自己最高位となる12位で完走することが出来ました。予選での転倒や、目まぐるしく変わる天候にコースコンディションと、全日本選手権の中でも大変厳しいレースとなりましたが、チーム一丸となって戦い、貴重な経験を積むことが出来たレースとなりました。この厳しいレースは、鈴鹿8耐へ向けて必ず活かせる経験になったと思います。





## ・レース2

レース2は今までの雨が嘘だったかのような快晴となり、JSB1000 クラスがスタートする 14 時頃には気温 34℃、路面温度 50℃以上という夏のレースらしいコンディションとなりました。意識を昨日までのレインから DRY へ切り替えて朝のウォーミングアップを走りました。マシンの調子が良い感じでしたので、後はライダーの頑張り次第でした。しかし、前日の転倒のダメージで、肩と腰が炎症を起こしていてコースイン直前までアイシングをし、痛み止めの服用をしての走行となりました。

そして、サイティングラップにおいて液体がコース上に出ていたため、30 分間の中断後、再スタートとなりました。レース序盤は前車よりも少し早いペースでしたので、なんとかくらい付いて抜けるタイミングを狙っていましたが、7 周目にブレーキをミスしてしまい前車から遅れ初めてしまいました。その後は、肩の痛みが酷く、スロットルを回すのも大変な状態でしたが、最後まで諦めずに感覚の無い右手をなんとか動かしながら完走を目指しました。こちらも、16 位で完走し、貴重なシリーズポイントを獲得することが出来ました。誠にありがとうございました。

